

相模原市感染症情報

2024年5月



今月の注目疾患：海外で注意すべき感染症

夏休みなどの連休には、海外へ渡航される方も多と思います。海外では、日本で発生していない感染症がたくさんあります。事前に渡航先の感染症発生状況に関する最新の情報を入手し、予防対策の確認や必要な予防接種の検討など、適切な感染予防を心がけましょう

海外での感染症予防のポイント



海外で感染症にかからないために、感染症予防に対する正しい知識と方法を身に付ければ、感染リスクを大幅に減らせます。

- 最も感染の可能性が高いのは、食べ物や水を介した消化器系の感染症です。
- 日本で発生していない、動物や蚊・マダニなどが媒介する病気が海外では流行していることがあり、注意が必要です。
- ヒトからヒトに広がる感染力の強い麻しん（はしか）、風しん及びポリオは、日本での患者は減少傾向又は発生していないものの、海外では感染することがあり注意が必要です。

海外で感染症にかからないために

1. 渡航先の最新の感染情報を確認しましょう

下記サイトなどで渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。

- ・ FORTH厚生労働省検疫所のHP
- ・ 外務省の海外安全HP



2. 予防接種の確認をしましょう

海外渡航前に、これまで受けた予防接種について確認しましょう。

また、渡航先で推奨される予防接種を確認し、まだ受けていないものがあれば、医師に相談する等適切な感染予防を心がけましょう。



感染経路別の対策

ヒトから感染するもの 麻しん、風しん、エムボックス、ポリオなど
・事前の予防接種や手指衛生を心がけるようにしましょう。

動物からうつる感染症 狂犬病、中東呼吸器症候群（MERS）、鳥インフルエンザなど
・動物にむやみに近寄ったり、触らないようにしましょう。



食べ物や水からうつる感染症 細菌性赤痢、コレラ、腸チフス、A型肝炎など
・生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
・食事は、十分に火の通ったものを食べましょう。



蚊やマダニが媒介する感染症 デング熱、マラリア、ジカウイルス感染症、SFTSなど
・蚊・マダニに刺されないように、服装に注意しましょう。
・必要に応じて虫よけ剤を使用しましょう。



帰国時

検疫所で健康相談を受け付けています。具合が悪かったり、体調に不安がある場合や渡航先での出来事で健康上心配な事があったら、相談するようにしましょう。

帰国後

感染症には潜伏期間があり、数日から3週間以上と長いものもあります。帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。



いずれかの症状が見られたら、医療機関を受診しましょう。
※事前に、電話で海外渡航歴があることを伝えてください。



相模原市 感染症情報センター



★相模原市感染症情報センターでは、毎週感染症に関する情報を掲載しています

発行：相模原市衛生研究所